おわりに

以上、板橋区と大東文化大学における教育資源、「知の資源」について、調査できる限りでデータを整理してみた。板橋区、大東文化大学ともに、多様なメニューを用意し、地域社会に提供しているが、そこには課題や問題が少なくないことも明らかになった。

板橋区では行政が広く学習機会や情報を提供して、住民福祉やまちづくりの人材育成に貢献する意味合いは薄れていないが、どこまでそうしたサービスを提供すべきなのかというリミットの設定が課題になっている。行政と民間の競合、役割分担も再検討されなければならない。

また、各部局の総合調整が行われていないため、競合や重複も多くなっている。全体的な効率化や経費節約の点からも、組織的再編成が求められている。

大東文化大学においても、エクステンションの各種講座のなかには民間と競合するものが少なくない。大学が地域社会の知的センターとして、生涯学習、産学連携、まちづくりなどの拠点となる意味合いは大きいが、そのリミットの設定や内部調整はまだ不十分な状況にある。大東文化大学には国際比較政治研究所、法学研究所、東洋研究所、書道研究所など、多くの研究機関があり、独自に公開シンポジウムなどを開催しているが、相互のテーマ連絡やスケジュール調整は行われていない。

また、大学には内外からの客員研究者や留学生も多いが、彼らの「知的資源」が必ずしも効果的に活用されているともいえない。前述したように、本来、地域に開放されるべきイベントや行事の情報が有効に発信されていないために、小規模な大学内部の設営に終わっていることが少なくない。

1996年4月の生涯学習審議会答申「地域における生涯学習機会の充実方策について」（資料Ⅲ参照）以来、各大学において、地域社会への積極的な教育学習機会の提供、施設開放、社会人学生・大学院生の受け入れ、生涯学習センター・エクステンションセンターの整備が進められ、大東文化大学もそれに漏れず、多彩な展開を遂げている。しかし、全体的にはまだ、過渡期的状況にあり、多くの課題を抱えているということである。

板橋区、大東文化大学ともに、それぞれの問題、課題を分析し、より生産的、効率的、市民的な地域社会へのサービス提供のあり方を検討すべき局面を迎えているといわなければならない。本研究においては、さらに先進事例などを調査し、板橋区と大東文化大学の協働とネットワーキングによる地域社会活性化の未来像を模索していきたい。

活動報告

	実施日	概　　要
第1回	2003/05/07	テーマ設定と分担について
第2回	2003/07/23	2003年度研究体制について
第3回	2004/01/19	ブックレット「板橋区と大東文化大学の地域に開かれた知の資源」の編集打ち合わせ
第4回	2004/01/28	ブックレット「板橋区と大東文化大学の地域に開かれた知の資源」の編集打ち合わせ